

歴史ある京町通り

1596年に相川付近で金が発見され、それまで小さな海辺の村だった相川は、人口5万人の新興都市へと変貌を遂げた。町の繁栄の絶頂期には、この大通りは京都の歓楽街にも匹敵するほどの繁華街となった。

京町通りは旧相川の中心部にあり、西の奉行所から東の金山の坑口を結んでいる。現在この通りに立ち並ぶ木造家屋のほとんどは、鉦山が三菱合資会社（現在の三菱商事）に払い下げられた後の20世紀初頭に建てられたものだ。大通りに並ぶ保存状態の良い長屋は鉦山労働者の社宅で、現在はほとんどが個人の邸宅になっている。

ゴールドラッシュにはさまざまな職業の人々が集まったため、古い町並みの多くには、「塩屋町」「味噌屋町」「八百屋町」など、かつての住人の職業にちなんだ名前が残っている。京町(文字通り「首都の地区」)という名前も、京都の有名な西陣織の織物を売り始めた織物屋が由来である。

京町通りを歩けば、まるで鉦山から金が湧き出し、相川が鉦山町だった時代にタイムスリップしたような気分になる。とりわけ夏の夜は風情がある。6月初旬に行われる宵の舞では、伝統的な衣装に身を包んだ住民が提灯に照らされた通りを練り歩き、相川音頭に合わせて踊る。1712年に建てられ、1860年に改築された古い鐘楼は、今でも1日の始まりと終わりを告げる鐘を鳴らしている。